

3

Annual Report 2014

各部

看護部

薬剤部

放射線技術部

臨床検査技術部

臨床工学部

リハビリテーション部

栄養管理部

感染制御部

医療安全管理部

臨床研究管理部

事務部

医療事務課

医局秘書課

資材課

施設課

システム開発室

総務室・財務室・人事管理室

地域医療連携センター

健康管理部

【看護部】

看護部は働きやすい職場環境作り、ワークライフバランス・キャリアアップを視野に入れた看護部体制作りに取り組んでいます。また、看護師一人ひとりの力が質の高い看護提供に繋がると考え、教育体制の充実やモチベーションアップのための仕組みを作っています。個々の看護師の専門性を活かした自律した活動展開は、地域の患者様に質の高い看護を提供する役割を担っています。他にも専門の講師を招き看護研究、看護に関する学習会を定期的に行い、専門職者としての知識技術習得に努めています。

2014年度看護部実績を中心に、「新人教育プログラム」「ラダー別教育プログラム」「法人内認定看護師活動」「看護外来の件数」などの詳細を項目別に報告します。

主な施設基準

7対1入院基本料
急性期看護補助体制加算(25:1)5割以上

職員配置及び有資格者

■看護職員数および配置

2015年3月31現在

		3階西 病棟	3階東 病棟	3階南 病棟	4階西 病棟	4階東 病棟	4階南 病棟	5階西 病棟	ICU HD	手術室	外来	DM-RA センター	看護 事務室	合計
常勤	看護師	24	—	24	29	26	29	32	41	18	16	4	4	247
	准看護師	1	—	0	0	2	0	0	2	0	2	0	0	7
非常勤	看護師	1	—	3	3	5	1	7	7	2	11	8	2	50
	准看護師	3	—	0	2	0	1	0	1	1	4	0	1	13
合計		29	—	27	34	33	31	39	51	21	33	12	7	317
常勤	ヘルパー	0	—	1	1	1	1	2	0	0	0	0	0	6
	ヘルパー	3	—	2	3	2	7	3	3	1	0	0	0	24
非常勤	病棟 アシスタント	1	—	1	1	1	1	2	0	0	0	0	1	8
	診療 アシスタント	0	—	0	0	0	0	3	0	0	18	10	0	31
合計		4	—	4	5	4	9	10	3	1	18	10	1	69

*2014年度は、新2病棟の開設、既存棟の工事により常時6病棟での運営でした。

■常勤および新人看護師の離職率 過去5年間の離職率は以下に示す通りです。

	常勤看護師離職率(全国平均)	新人看護師離職率(全国平均)
2010年度	12%(11.2%)	17%(8.6%)
2011年度	9%(11.2%)	17%(8.1%)
2012年度	10%(10.9%)	4%(7.5%)
2013年度	7%(11.0%)	10%(7.5%)
2014年度	10%(調査未)	0%(調査未)

■認定看護師の紹介および役割

現在、緩和ケア、感染管理、がん化学療法看護、脳卒中リハビリテーション看護、救急看護、集中ケア看護の6領域にて8名で活動しています。



認 定 名	取 得 年	教 育 機 関	更 新 年
緩和ケア	2005年8月	日本看護協会 神戸研修センター	2010年
感染管理	2007年7月	日本看護協会 神戸研修センター	2012年
緩和ケア	2009年7月	久留米大学医学部認定看護師教育センター	2014年
がん化学療法看護	2010年6月	久留米大学医学部認定看護師教育センター	
がん化学療法看護	2010年6月	久留米大学医学部認定看護師教育センター	
脳卒中リハビリテーション看護	2011年7月	熊本保健科学大学	
救急看護	2014年7月	九州国際看護大学	
集中ケア看護	2014年7月	西南大学	

①緩和ケア認定看護師 福田 富滋余

緩和ケアは、病気とともに生きる患者さんが、つらくないように病気と付き合っていく方法を家族・患者さんとともに考え、心と身体、生活をサポートしていくケアです。がんなどの疾患に対し、病気そのものや治療に伴うさまざまな苦痛を和らげ、QOL(生活の質)を維持・向上することを目的とし、治療早期から最期の時まで主治医・担当看護師・緩和ケアチームとともに支援します。

②感染管理認定看護師 奥田 聖子

「白十字グループに関わる全ての人を感染から守る」を使命とし、感染防止に取り組んでいます。定期的に流行する風疹や麻疹ですが、当院は以前より抗体獲得に取り組んでおり、感染を受けない、感染源にならないような体制を作っています。

③がん化学療法看護認定看護師 辻 かよ子 原田 里香

がん化学療法に特化した知識と技術をもとに、安全な投与管理、副作用症状のマネジメント、患者さんがセルフケアができるような支援を行うことが求められています。また、看護スタッフの指導・相談を行うとともに、自己の臨床実践能力を向上し、がん化学療法看護の発展に貢献していく役割があります。『がん化学療法を患者さん・ご家族が安心して安全に安楽に受けられるとともにがん化学療法に携わるすべてのスタッフが安全に安心して看護ができる』ことを目標に活動を行っています。

④脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 山口 淳也

現在、脳卒中は死因の第4位ですが日本人寝たきり疾患患者の第1位を占め、また人口の高齢化とともにさらに患者数の増加が予想されます。脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は、発症直後・超急性期から脳卒中患者の病態予測を行い、重篤化を回避するためのモニタリングやケアを行い廃用症候群予防・家族を含めた退院支援・再発予防に努めていきます。

⑤救急看護認定看護師 谷口 拓司

救急看護の対象は、年齢・性別・疾患・重症度などを問わず突発的に発症した患者やご家族を含め、さまざまなライフステージの人々が救急看護の対象となります。そのような中で、危機的状況にある患者さんの救命処置やご家族の精神的ケアなどの幅広い看護実践が求められます。救急看護認定看護師の役割として、臨床現場において、実践・指導を行いながら院内の救命技術研修等の活動を行っています。また、地域への救急医療の貢献に向けた活動を行い、救急看護・医療の質向上に努めていきます。

⑥集中ケア認定看護師 牛島 めぐみ

集中的な治療と看護を要する患者さんとそのご家族を対象に、質の高いケアを提供できるよう全身管理を行っています。できるだけ早い社会復帰ができるように、また、患者さんの「その人らしさ」を大切にしていけるよう、的確な情報収集と判断を行い、回復を促進させられるケアを提供していきます。

■学会認定看護師

専門学会認定看護師の資格取得を支援しています。資格取得後は、院内での看護実践、地域への講演活動等において、看護の質向上に努めています。

2014年3月31現在

認 定 名	人数	認 定 名	人数
消化器内視鏡技師	7名	透析技術認定士	3名
日本糖尿病療養指導士	12名	呼吸療法認定士	3名
リウマチケア看護師	7名	I V R 看護師	2名
一次救命処置認定看護師(BLS)プロバイダー	43名	骨粗鬆症マネージャー	2名
一次救命処置認定看護師(BLS)インストラクター	28名	糖尿病重症化予防(フットケア)	4名
一次救命処置認定看護師(ACLS)プロバイダー	26名	弾性ストッキングコンダクター	3名
I S L S プ ロ バ イ ダ ー	3名		

認定看護管理者教育課程修了:ファーストレベル20名、セカンドレベル5名、サードレベル1名
看護管理者育成も日本看護協会の看護管理教育課程を毎年計画的に受講し、看護の質向上に向けて各部署の看護管理を行っています。

■法人内認定看護師

法人内にて、1年の教育期間を経て、認定看護師や学会認定看護師・診療部などの講師より講義や活動の支援を受けながら資格を取得し3年で更新します。2014年度からは「脳卒中リハビリテーション看護」を開始しました。毎年5月の審査会を経て、6月より活動を開始します。

認 定 部 門	認 定	2014年度受講者	認 定 部 門	認 定	2014年度受講者
説明支援ナース	8名	1名	N S T	5名	1名
皮膚ケア	7名	1名	がん化学療法	4名	1名
緩和ケア	5名	1名	ケア技術指導者	1名	2名
感染管理	8名	0名	脳卒中リハ看護	—	6名
			合 計	38名	13名

■看護部の活動報告

■地域共同学習会および出前講座

認定看護師・法人内認定看護師・学会認定看護師が中心となり、地域医療機関を対象とした研修会を実施しています。出前講座に関しては、「糖尿病」「緩和ケア」を中心に、県北地区で開催しています。

開 催 日	タ イ ト ル	担 当	参加数
2014年10月18日	あなたも私もらくらく介護 日常生活編:入浴~	白十字会・白寿会グループ 法人内認定ケア技術指導者	28名
2014年11月1日	ノロウイルス・インフルエンザの感染対策について	感染管理認定看護師	39名
2015年3月28日	看取りケア~心豊かな最後のケア 「エンゼルケア」を一緒に考えませんか?	緩和ケア認定看護師 法人内認定緩和ケア看護師	54名
			121名

■看護外来実績

認定看護師・法人内認定看護師・学会認定看護師が中心となり、市民・患者・家族・地域医療機関のスタッフを対象に相談・指導などを行っています。2014年度の実績は下記のとおり合計2205件でした(*5月・9月の健康フェスタの対応数も含む)。

看 護 外 来 名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
皮膚ケア	29	34	32	40	50	43	40	33	23	21	21	31	397
下肢静脈	13	78	20	19	23	27	23	15	21	21	16	12	288
がん支援	71	89	80	57	53	54	52	76	67	74	67	69	809
女性の為の尿失禁	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	3
禁煙	4	3	4	0	0	3	1	0	0	1	2	2	20
脳卒中リハビリ看護	0	24	1	0	0	0	1	0	3	2	3	5	39
糖尿病	25	127	27	28	30	226	38	22	30	22	36	29	640
ハイパーサーミア	1	1	1	0	3	2	2	0	0	1	1	0	12
合 計													2205

■ 新人看護師研修プログラム

新人看護師研修プログラム

21名の新人看護師は、人事本部からの研修を2日間、看護部の集合教育3日間を受け、各部署へ配置されます。4月は毎日午後より新人看護師は研修室で集合教育を受けます。5月からは年間教育プログラムに沿った毎月の研修と、各部署での看護技術指導があります。2013年度末に購入した「高機能シミュレーター」を用いた研修では、呼吸音聴取や呼吸器装着のアラームに対する対応をチームで行うなどの学習を行いました。



2014年度 新人看護師 年間教育研修スケジュール

		集合研修				OJT活動		
		A:新人看護師研修	A:教育担当者	B:学研ナースング	人事本部・病院全体			
		新人研修責任者:合川		水曜日 16:00~17:30				
4月	入職前研修 3日間 4/3-4-7日	就職前研修		4/30(水) 第1講義室	注射法の知識と手技の実際	4/1(火)・2(水) 新入職員研修(21名)	実地指導者 教育担当者 部署課長	他部署技術交流研修
5月	5/13(火) 15:00~17:30 第2講義室	検体の取り扱ひ輸血など	検査課:血液センター 1G(4西)担当	5/15(水) 会議室	これだけは知っておきたい薬の知識			
	5/21(水) 16:00~17:30 第2講義室	ストレスケア	平田元看護部長 担当:横山部長、合川					
6月	6/11(水) 15:00~17:30 2講義室	与薬技術(麻薬・劇薬・毒薬など)	薬剤課2G(4東)担当	6/25(水) 第2講義室	看護過程の思考プロセス		目標面接 ★評価確認	
	6/16(月) 15:00~17:00 講義室	看護診断	記録委員会 小柳課長					(例) OP室/救外 →ICU 3東病棟 →ICU/HD
	6月看護部全体研修	看護必要度について	業務委員会					
7月	7/7(月) 15:00~17:30 第1・2講義室	感染研修 第2弾	感染制御部奥田主任 院内認定看護師 教育担当、合川	7/23 (木)会議室	多重課題・時間切迫時の対応を考える			★約束事項★ ①他部署の研修希望
		個人面接 (入職後3ヶ月)	横山看護部長				★評価確認	
	7/15(火) 17:00~17:30 リフレッシュルーム	新人看護師 茶話会(人事研修後)	合川			7/14(月)・15(火) 新人フォローアップ研修		②担当指導は 教育担当者(交 流の部署 どちら がつかっても 可)
8月	8/6(水) 15:00~17:30 第1・2会議室	ケア技術研修	安藤法人内 認定ケア技術指導者	8/27(水) 第2会議室	臨床検査を看護に生かす			③自部署の課 長・主任へあら かじめ報告を行 う。
9月	9/9(火) 15:00~17:30 第1会議室	人工呼吸器について 基礎編 呼吸器フィジカルアセスメント 実践編	ME:前田課長、牛島Ns 3G(3西) 合川	9/27(土) 第2会議室	①9:00~12:00 安全における報・連・相と報告書の書き方 ②12:00~13:30 糖尿病の基礎知識と血糖測定・インスリン注射		★評価確認 チェックリスト提出 9月1週目まで	④日程が決定し たらお互いの 課長へ勤務の 調整を申し出る
	9/26(金) 16:00~17:30 第1会議室	放射線研修	放射線科 4G(3東)担当					
10月	10/14(火) 14:00~17:30 第1会議室	NST-口腔ケア・経管栄養・褥瘡 について	NST 6G(ICU/HD)	10/22(水) 会議室	看取りのケア 臨死期前後の患者・家族への看護	10/12(土) 9:00~12:00 安全における報・連・相と報 告書の書き方	目標面接 評価確認	
11月				11/26(水) 第2会議室	吸引・排痰のケア			
12月	12/7(土) 10:00~12:00予定	リフレッシュ研修: 川棚口マン工房	教育担当者、合川	12/24(水) 第2会議室	①9:00~12:00 安全管理・総合 ②12:00~13:30 12誘導心電図、心電図モニタの理解			
	11/19(金) 16:00~17:00	医療ガス研修	施設課主催					
1月	H27 1/8(木) 16:00~17:00 第2会議室	退院支援について	MSW:本主任 7G(5西)合川	1/21(水) 第2会議室	ドレーン・チューブ挿入中患者の管理とケア			
2月	2/20(金) 15:00~17:30 講義室	死後のケア	福田緩和認定看護師 法人内認定緩和ケア看護師3名	2/20(水) 第2会議室	13:30~14:50 褥瘡の基礎知識と予防法	2/1(土) 9:00~12:00 安全管理・総合		
3月	3/20(金) 12:30~(1時間) 第1会議室	新人ランチョン面談会	部長・次長	3/25(水) 第2会議室	高齢者の理解と転倒・転落予防		★評価確認 チェックリスト提出 3月1週目まで	

2014年度は、院外の新人看護師も参加できるように教育を計画し、以下の通り、研修を実施しました。(新人以外では30年経験がある方もいて熱心に実技体験もされていました)

開催日	タイトル	担当	参加数	合計
2014年 7月 1日 8月11日	『救命救急処置』 ～私は何をする人～	救急部 看護課長他	院内:10名 院外: 6名	16名
2014年11月15日 2015年 3月25日	『感染対策新人研修』 ～知っておきたい基本～	感染制御部 感染管理認定看護師	院内:12名 院外: 4名	16名

■ラダー別研修プログラム

「人材育成」「人材活用」「能力評価」を目的として、ラダー制を導入し、多くの研修を行っています。看護職務の内容と看護職に求められる能力を規定したキャリア開発の設計図であり、活用することで各自の役割認識を高め、患者さんに対して質の高い看護を提供できます。個人の申し出により、下記の臨床ラダーを用いて、個人のキャリア開発を推進しています。2014年度は、各ラダーの交流を深めるためにフィッシュ理論を用いたリフレッシュ研修(ピザづくり、陶器づくり、オリエンテーリングなど)を行いました。

2014年度 ラダー別研修プログラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ラダーⅡ			6/20:学研 看護過程の 思考プロセス			9/19 看護過程の 事例展開 意見交換				1/9 看護展開 発表	2/28 フィッシュ論	3/13 実地指導者 とは (教育担当 者)
ラダーⅢ		5/28 リーダー シップ					10/23 6ヶ月評価		12/2 成果発表			
選択研修	4/25:学研 中枢神経系の フィジカル アセスメント		5/31 リフレッシュ ※課長含む	7/25:学研 医療における リスク マネジメント			コミュニケー ション 10/1		12/4:学研 エンド・ライ フにおける 高齢者のケア			
ラダーⅣ			5/16- 5/23 自己の役割 を明確にする 2回実施			9/27 リフレッシュ		11/21- 11/28 6ヶ月評価 2回実施			2/17-2/23 成果発表 2回実施	3/20 実地指導者 とは (教育担当 者)
ラダーⅤ										1/24 リフレッシュ		
ラダーⅥ	4/22 スタッフ育成 について監督 者として	5/30:学研 看護必要度と 看護記録				8/29:学研 病棟における 労務管理		11/28:学研 病床 マネジメント		1/20:学研 看護管理者に 必要な交渉力 とは	2/20 キャリア開発 目標管理	3/23 新人教育体制 について
ラダーⅦ	4/28 スタッフ育成 について監督 者として			7/29 フィッシュ!			11/8 リフレッシュ					
全体研修		5/1 実習指導に ついて	6/27:学研 臨床倫理の 考え方と実際	7/10 皮膚ケア			10/1 摂食・嚥下	11/14 看護を語る	12/22:学研 退院調整、 事例で学ぶ 具体的な ポイント	1/29 法人内認定 看護師活動 報告会	2/26 実習受け入れ 病院として	
			6/9- 6/10 退院支援 3回実施									
看護診断				8/30			10/11					3/21
看護研究	4/30		6/13			9/19	10/10 全体:統計		12/19	1/16		3/28 研究会

学会・研修会への参加実績

研究に関しては、定期的に外部講師からの指導を受けています。日本看護学会の各領域の学会を中心に、次頁に示す通り各部署より発表しています。また、専門学会にも16演題発表しておりますので、197ページを参照してください。

法人全体の看護部で行われる「法人内看護Institute」では、全国訪問看護事業協会理事の宮崎和加子先生を招いて、「訪問看護の醍醐味」を講演いただきました。第二部では、「法人内における施設間の連携・退院支援～事例発表 6題」、第三部では「法人内認定者のグループ内連携、地域を視野

に入れた活動報告5題」を公表し、活発な意見交換を行いました。

院内の看護研究学会では、特別講師の石垣恭子教授による「研究倫理」の教育講演および、院内より6題の発表がありました。

部 署	学 会 名	月 日
4階東病棟	日本看護協会 看護管理	9月25日・9月26日
外来	日本看護協会 看護管理	9月25日・9月26日
ICU/透析室	日本看護協会 急性期看護	10月23日・10月24日
4階西病棟	日本看護協会 急性期看護	10月23日・10月24日
3階西病棟	日本看護協会 急性期看護	10月23日・10月24日
手術室・中材	日本看護協会 急性期看護	10月23日・10月24日
4階南病棟	日本看護協会 急性期看護	10月23日・10月24日
外来	日本看護協会 急性期看護	10月23日・10月24日

重点目標・評価と来年度への展開

1) 「退院支援ナースの育成」と「退院支援カンファレンスの充実」

2014年度は、退院支援についての学習として、「在宅支援ナースの育成」プログラムを1年かけて学習し修了試験も合格した看護師が20名(計39名)誕生しました。訪問看護・ケアプランセンターの実習を経て、在宅の現状も把握した看護師です。

退院支援チームの主任と他部門・多施設の職員が参加する「拡大カンファレンス」を継続し、患者や家族にとって「幸せな退院」になるような活動を積極的に行いました。入院時より、担当看護師とMSWによるスクリーニングを実施し、入院3日以内の退院カンファレンスの開催を行い、早期の介入を行っています。その後は、定期的に退院カンファレンスを行っています。退院前には、「かかりつけ医」「在診医」「ケアマネジャー」の協力のもと、多職種との退院前カンファレンスを実施し、在宅希望の患者・家族の意向に沿えるような最善の在宅支援を検討しています。必要時は、試験外出・外泊時を勧めて、在宅に必要な物が揃っているかの確認を行うなど、看護師、MSW、ME、リハビリスタッフ、訪問看護師と共に退院前訪問を行いました。

また、転院となる際も、患者・家族の意向の確認と転院先との情報交換により、スムーズな退院支援を心がけました。「在診医」の診療終了時間に合わせたの、当院での「退院前カンファレンス」の開催など、患者・家族が安心して自宅へ退院できること、在宅でも継続した医療・看護・介護が受け入れるためにカンファレンスを重要視しています。

2) 「食べられる口」をつくるための「口腔ケアの充実」

「口腔ケア回診」も2年目を迎え、歯科衛生士2名を病棟に配置し、法人内認定NSTナースと共に、各病棟へ口腔ケアの指導や、口腔内点検(歯周病や義歯の咬合)を行いました。特に周術期(特に侵襲が大きい開心術)の歯科受診や口腔ケアを行いました。栄養管理と同様に、早期の経口摂取と術後感染防止を目指しています。

3) 「認知症専門ナースの育成」

認知症センターの専門医師およびスタッフが講師となり、1年計画で「認知症専門ナース」の育成を開始しました。急性期病院でも認知症や術後せん妄の対応に苦慮しています。定期的な講義と認知症センターの見学、認知症対応デイの体験実習等を組み込んだ研修を8名が修了しました。

4) 増改築工事における病棟編成

2014年7月に南館3階と4階に新たな病棟ができました。その後2015年の4月までかけて既存棟の工事をを行います。病棟工事に合わせ、病棟編成を定期的に行いました。

【薬剤部】

「薬剤部は調剤室、注射室、製剤室、医薬品情報室、医薬品倉庫で構成され、救急および急性期の医療に24時間対応し、医薬品の適正使用ならびに適正管理に努めています。患者さんにとって最適な薬物療法が実施されるよう薬剤管理指導業務、調剤業務等を通して、チーム医療の一員として業務に取り組んでいます。

主な施設基準

薬剤管理指導料
 外来化学療法加算1
 無菌製剤処理料1

取得認定資格

日本医療薬学会指導薬剤師 …………… 1名
 日本医療薬学会認定薬剤師 …………… 2名
 日本糖尿病療養指導士(CDE) …………… 2名
 日本リウマチ財団リウマチ登録薬剤師 …………… 2名
 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 …… 5名
 日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
 …………… 1名
 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師 5名
 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 …………… 1名

職員配置

	常勤数	非常勤数
総数	10人	4人
薬剤師	10人	1人
薬剤助手	—	3人

活動状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
薬剤管理指導	実施人数	190	192	220	213	168	136	147	129	135	150	177	186	170
	実施件数	280	257	301	309	214	200	205	190	177	205	223	224	232
入院時持参薬	鑑別件数	343	372	393	427	406	430	412	389	415	437	379	418	402
抗癌剤無菌調整算定件数	外来(件)	86	95	82	87	70	64	81	50	59	58	49	57	70
	入院(件)	47	39	51	75	50	54	38	55	61	54	34	40	50
外来(院外)処方枚数		5,840	5,793	5,697	6,035	5,618	5,891	6,176	5,119	6,019	5,741	5,418	6,045	5,783
外来(院内)処方枚数		280	245	229	260	291	256	265	274	442	442	232	302	293
入院処方枚数		3,956	4,016	4,091	4,505	4,349	4,339	4,544	4,079	4,705	4,511	4,324	4,605	4,335

学会・研修会への参加実績

■学会発表

学 会 名	演 題	発 表 者
第24回日本医療薬学会年会	関節リウマチに対するトシリズマブ皮下注製剤の有効性に関する検討	曾根本 恵美
	バンコマイシンのMIC値とMRSA肺炎の治療効果に関する検討	岩村 直矢
第49回九州リウマチ学会	関節リウマチ患者への薬剤指導の現状とその評価	紙谷 友里子
第5回MRSAフォーラム	バンコマイシンのMIC値がMRSA肺炎の治療効果に及ぼす影響	岩村 直矢
長崎県病院薬剤師会感染制御研修会	バンコマイシン初期投与設計の取り組みについて	岩村 直矢

重点目標・評価と来年度への展開

2014年度には3名の薬剤師が入職し、若い薬剤師が増えたため、病棟での薬剤管理指導業務の実践に繋げる基礎固めとして薬剤部全員で幅広い知識の習得に力を入れました。2015年度には、より多くの入院患者さんの薬物療法に積極的に介入し、チーム医療の一員として適切な薬物療法に貢献できるよう努めます。また、専門分野にもより深く追究し、専門・認定資格取得を目指します。

【放射線技術部】

放射線技術部は、放射線関連検査および治療に携わっている診療放射線技師を中心とした部門です。診断価値の高い画像情報を提供できるよう、各種専門・認定資格を有する診療放射線技師が多数在籍しており、また、患者さんが安心して検査や治療を受けることができるように医療被ばくの低減にも努めています。

主な施設基準

CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算
心臓MRI撮影加算
高エネルギー放射線治療

施設認定

マンモグラフィ検診施設画像認定
医療被ばく低減施設認定

職員配置

	常勤専従	常勤専任・兼任		非常勤数
		人数	常勤換算	
総数	16人	1人	0.5人	—
診療放射線技師	15人	1人	0.5人	—
事務(受付)	1人	—	—	—

取得認定資格

放射線取扱主任1種……………3名
放射線管理士……………3名
放射線機器管理士……………4名
医用画像情報精度管理士……………2名
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師……………3名
MR専門技術者……………1名
胃がん検診専門技師……………3名
X線CT専門技師……………1名
救急撮影認定技師……………1名

活動状況

	2010年度件数	2011年度件数	2012年度件数	2013年度件数	2014年度件数
一般診療	45,612	48,264	48,202	51,547	58,753
検診	13,943	10,676	12,798	12,649	12,892
総計	59,555	58,940	61,000	64,196	71,645

重点目標・評価と来年度への展開

「顧客満足の視点」において、患者満足度評価の結果9.5点以上・職員間満足度評価の結果7.5点以上がどちらも8項目と目標を達成しました。今後も、これまで同様質の高い接遇を目指し、気を緩めることなく改善活動を続けて参ります。「財務の視点」においては、コスト・在庫数の削減が、どちらも昨年度実績値の3%減を達成しており、こまめなコスト・在庫数の管理やスタッフへの意識付けなど、地道な作業が効果的であったと思われます。「病院機能の視点」では、電子カルテ内の放射線情報システムに関する部分ならびにその操作法などを見直しました。スタッフ全員で定期的に検証することにより、システムの不備や誤った使用方法などを浮き彫りにし、システム自体のみならず使用方法をも改善することで、より効率よい仕事を行うことができます。「学習と成長の視点」では、専門知識の向上として、長崎県以上開催での研修会にて、5題の研究発表を行うことができました。今後も、検査別の研究発表促進チームによる活動をもとに、医療情報提供に役立つテーマを探り、技術向上に活かせる研究発表を積極的に行っていきたいと思っております。

学会発表実績

日付	学会名	演題	発表者
2014年7月	CTMR研究会	当院のCTCIについて	中恵 龍一
2014年9月	長崎県放射線治療研究会	当院の放射線治療装置について	天野 雄生
2014年9月	GyroCUP2014	T2prepTFECOR下肢動脈撮像法	馬場 隆治
2014年12月	九州IVR研究会	大動脈ステントグラフト内挿術におけるCT/MRロードマッピングの初期使用経験	伊藤 淳一
2015年2月	RIルネッサンス佐世保	ダットスキャン静注の使用経験	村井 秀樹
2015年3月	東芝ユーザー会	MR専門技術者に向けて	馬場 隆治
2015年3月	CTMR研究会	健診CTCに向けての 低線量撮影時の画質評価	森 健大

【臨床検査技術部】

「中央分析室」「病理細胞診室」「微生物室」「生理超音波室」の4部署から構成されており、一日も早い患者さんの社会復帰を実現するために、職員一丸となって最新の検査技術・知識を駆使し業務に当たっています。当部門は臨床検査の国際規格であるISO 15189「臨床検査室一品質と能力に関する特定要求事項」を、長崎県で第1番目(全国65番目)に取得した認定検査室です。当院、臨床検査技術部で測定・報告された検査データは、国際的にも通用するものです。



ISO 15189認定シンボル

主な施設基準

ISO 15189認定施設
 精度保証施設認証 取得施設(JCCLS、日臨技)
 長臨技データ標準化委員会基幹病院

職員配置

	常勤	非常勤(常勤換算)	合計(常勤換算)
医師	1人	—	1人
臨床検査技師	23人	4人(3人)	27人(26人)
助手	1人	1人(0.5人)	2人(1.5人)

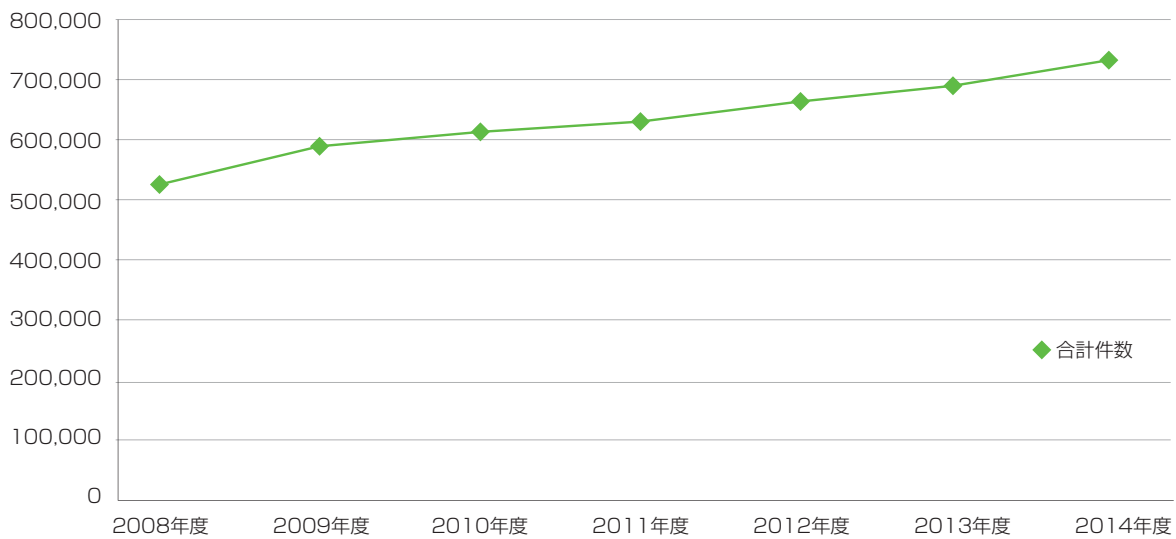
取得認定資格

細胞検査士……………5名
 超音波検査士……………4名(実人数)
 (消化器4名、循環器2名、体表臓器1名、健診1名)
 認定輸血検査技士……………2名
 糖尿病療養指導士……………2名
 血管診療技師……………1名
 認定心電検査技師……………1名
 救急検査認定技師……………1名

活動状況

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
生化学・免疫	207,264	246,041	256,658	264,069	279,393	297,765	305,429
血液・一般・輸血	213,214	236,888	242,807	247,954	259,684	277,257	294,071
生理・超音波	34,056	36,953	34,911	33,639	35,901	37,618	40,815
微生物	9,647	10,652	11,603	12,259	11,988	13,994	14,626
病理・細胞診	6,615	7,128	6,886	6,534	6,871	6,662	7,025
外来採血	35,291	39,358	41,610	43,671	44,923	45,642	45,461
外注	15,226	14,376	16,220	15,050	15,337	16,835	16,477
合計件数	521,313	591,396	610,695	623,176	654,097	695,773	723,904
病理解剖	18	14	10	10	21	10	14

◆合計件数



重点目標・評価と来年度への展開

2013年度はISO 15189の要求事項に適合する品質マネジメントシステムの構築・維持を重点目標として取り組みました。2013年1月23・24日に行われた初回サーベイランスにおいて認定継続が承認されました。2014年10月には第2回サーベイランスが実施されました。今後も認定維持を念頭に置き業務の品質管理に努めてまいります。また2014年1月には搬送・分注装置、生化学検査、免疫検査の測定装置を最新の機種に更新しました。更新により精度が高い検査結果を、より迅速に報告することが可能となります。

学会発表実績

学 会 名	演 題	
第103回 日本病理学会	当院におけるISO 15189認定の取得・維持について	丸田 秀夫
第63回 日本医学検査学会	高浸透圧条件下で偽低値を呈した血糖POCT機の検討	伊藤 将大
第29回長崎県臨床細胞学会 総会及び学術集会	ワークショップ 長崎県におけるLBCの現状(婦人科)	片瀬 直
第30回日本臨床細胞学会 九州連合会学会	気管支に発生した腺様嚢胞癌の1症例	入江 美奈
第61回日本臨床検査医学会	臨床検査医技師のチーム医療へのかかわり	丸田 秀夫
平成26年度長崎県 臨床検査技師会学会	フェリチンの上昇を認めたマイコプラズマ陽性不明熱の一症例	鈴木 涼
日臨技北日本支部 臨床検査総合部門研修会	チーム医療への貢献について～ 検査説明・相談できる技師の育成～	丸田 秀夫
ラボ検査研究会 第11回講習会	検査説明・相談の出来る臨床検査技師育成への 日臨技の取り組み	丸田 秀夫
乳がん市民公開講座	乳がん超音波検査について	丸田 千春
長崎県乳房撮影技術研究会	乳腺の超音波検査について	丸田 千春
佐賀県検査説明・相談ができる 臨床検査技師育成講習会	検査説明・相談の模擬演習	安東摩利子

【臨床工学部】

臨床工学技士は医師の指示のもと、循環・呼吸・代謝機能を代替、補助する生命維持管理装置の操作、保守点検を担当する技術者のことで、ME(Medical Engineer)や、CE(Clinical Engineer)と呼称されています。

近年の高度先進医療の目覚ましい発展と共に医療機器も複雑化、多様化しており、我々、臨床工学技士が医療機器の購入から運用、廃棄まで一貫して管理を行い、患者さんはもちろん、現場スタッフにも安心して使用して頂ける医療機器の提供と共に臨床技術の提供、現場スタッフへの教育などを行っております。

現在男性8名、女性3名の計11名の臨床工学技士が在籍しており、血液浄化業務、手術室業務、医療機器管理業務、不整脈治療業務、温熱療法業務、睡眠時無呼吸外来業務、待機、当直業務、医療ガス設備管理業務などを365日24時間体制で行っております。

主な施設基準

医療機器安全管理料1
 透析液水質確保加算2
 MRI対応植込み型デバイス装着患者のMRI検査
 冠動脈、大動脈バイパス移植術及び体外循環を要する手術
 経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈血栓切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術
 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法

職員配置

認定資格	体外循環技術認定士	1名
	呼吸療法認定士	1名
	特定化学物質等作業主任	2名
	第一種消化器内視鏡技師	1名

メンテナンス認定	人工呼吸器 Servo i / S プリベンティブメンテナンス講習会	6名
	人工呼吸器ピューリタンベネット 700シリーズミドルコース	3名
	人工呼吸器ピューリタンベネット 700シリーズアドバンスコース	6名
	低圧持続吸引器MS-008 メンテナンス講習会	2名
	輸液ポンプTE-131 メンテナンス講習会	6名
	輸液ポンプTE-161S メンテナンス講習会	5名
	シリンジポンプTE-331S/322S メンテナンス講習会	5名
	シリンジポンプSP-115 メンテナンス講習会	1名
	日機装透析液供給装置 メンテナンス講習会	9名
	日機装患者監視装置 メンテナンス講習会	9名

スタッフ構成	臨床工学技士	11名
--------	--------	-----

活動状況

M	E	機	器	使用件数																	
シ	リ	ン	ジ	ポン	プ	4,646															
輸	液	ポ	ン	プ	4,266																
医薬品注入コントローラ(ドリップアイ)					351																
経腸栄養剤投与輸液ポンプ(カンガルーポンプ)					21																
携帯型輸液ポンプ(PCAポンプ)					2																
S	P	O	2	モ	ニ	タ	ー	107													
モ					ニ	タ	ー	29													
人					工	呼	吸	器	143												
非					侵	襲	型	呼	吸	器	152										
二					相	式	気	陽	圧	ユ	ニ	ット	(オ	ー	ト	セ	ッ	ト	CS)	2
エ					ア	ロ	ネ	ブ	29												
低					圧	持	続	吸	引	機	(メ	ラ	サ	キ	ュ	ー	ム)	263		
超					音	波	装	置	327												
そ					の					他	15										
合					計					10,353											

M	E	機	器	修	理	件	数	
自				部		署		381
業				者		162		
合				計		543		

透	析	機	器	使用件数							
透				析	供	給	装	置	313		
A				剤	自	動	溶	解	装	置	313
B				剤	自	動	溶	解	装	置	313
R				O		装		置	313		
患				者		監		視	装	置	13,053
合				計		14,305					

ア フ ェ レ ー シ ス 関 連			
C H D F	症例数		13
	治療件数		44
エンドトキシン吸着療法	症例数		10
	治療件数		16
単純血漿交換	症例数		4
	治療件数		13
LDL吸着療法	症例数		4
	治療件数		19
L - C A P	症例数		12
	治療件数		45
腹水濃縮	症例数		5
	治療件数		6
合 計	症例数		48
	治療件数		143

温 熱 治 療	合 計
導 入 数	27
治 療 件 数	363

補 助 循 環 装 置	使用件数
P C P S	5
I A B P	38
合 計	43

自 己 血 回 収 装 置	使用件数
	57

レ ー ザ ー 焼 灼 術	使用件数
	143

E C C	合 計
C A B G	27
A V R	4
M P	2
C A B G + A V R	2
心 臓 腫 瘍	1
パ ッ チ 閉 鎖 術 (V A P)	2
大 血 管	1
M I C S + M V R	1
M V R + C A B G	2
M V R + T A P	1
合 計	43

O P C A B	合 計
	12

神 経 刺 激 装 置			
S	E	P	1
M	E	P	4
合 計			5

カ テ ー テ ル ア プ レ ー シ ョ ン	合 計
	16

重点目標・評価と来年度への展開

■当直業務における均一した業務提供

2013年9月より当直業務開始しているが、業務によって技術の斑が無いよう、ステップ表に基づいて、一定のスキルまでスタッフ教育を行う。

■在宅・緩和医療への参入

今後、在宅で医療機器は頻繁に使用されることが予測される。院内使用から在宅使用へスムーズな移行が出来るよう、訪問看護ステーション、緩和医療地域連携医とのチーム医療へ参入していかなければならないと考え、在宅支援ST育成を推進する。

研修会への参加

学 会 名	演 題
第47回九州人工透析研究会	当院のシャント管理 ワーキンググループの活動報告
第9回九州臨床工学技士会	現場の困りごとをかたちへ
第7回長崎臨床工学技士会	当院における 術中モニタリング業務について

【リハビリテーション部】

長崎県下の急性期病院の中でも最多のスタッフ数を誇り、安全で効果的なリハビリテーションを365日体制で提供しています。

対象患者も術後早期から緩和医療の患者まで幅広く、「いつでも、どこでも、誰にでも」をモットーに必要なのある患者に十分な量のリハビリテーションを実施しています。

主な施設基準

脳血管疾患等リハビリテーション料I
 運動器リハビリテーション料I
 呼吸器リハビリテーション料 I
 心大血管疾患リハビリテーション料 I
 がん患者リハビリテーション料

職員配置

	常勤
理学療法士 (P T)	23.25人
作業療法士 (O T)	17.75人
言語聴覚士 (S T)	8.8人

取得認定資格

認定理学療法士(呼吸・循環・脳卒中)……………各1名
 認定言語聴覚士(摂食嚥下領域)……………1名
 心臓リハビリテーション指導士……………3名
 3学会合同呼吸療法認定士……………8名
 日本糖尿病療養指導士……………1名
 AKA博田法 認定指導助手……………1名
 AKA博田法 認定療法士……………1名
 AMPS……………1名
 介護支援専門員……………3名
 福祉住環境コーディネーター2級……………21名
 福祉用具プランナー……………8名
 認知運動療法 ベーシックコース修了……………3名
 認知運動療法 アドバンスコース修了……………1名
 ボバースアプローチ認定療法士……………1名
 ボバース イントロダクトリーモジュール……………4名
 ボバース ヒューマンムーブメント……………4名
 キネシオテーピングKTAM……………3名
 パワーリハビリテーション上級指導員……………1名
 地域リハビリテーションコーディネーター……………1名
 コアコンディショニング BASICインストラクター……………4名
 摂食嚥下コーディネーター……………3名

活動状況

部門別実施件数

単位：件

		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
入 院	P T	30,576	31,149	30,556	32,749	35,770
	O T	23,333	24,470	25,281	24,792	28,886
	S T	9,593	9,844	8,484	10,696	12,222
	合計	63,502	65,463	64,321	68,237	76,878
外 来	P T	1,209	1,323	1,077	950	1,587
	O T	238	259	533	352	568
	S T	66	136	328	222	220
	合計	1,513	1,718	1,938	1,524	2,375

疾患別内訳

単位：件

		件数	全 体	
			Gain	Efficiency
全	体	2,341	24.35	1.22
外	科	313	41.12	2.08
	脳 神 経 外 科	407	26.69	1.09
	整 形 外 科	255	22.34	1.14
	心 臓 血 管 外 科	130	46.25	2.00
	循 環 器 内 科	363	25.14	1.73
	消 化 器 内 視 鏡 科	202	14.27	0.95
内 科	リ ウ マ チ	303	14.00	0.73
	糖 尿 病	98	12.77	0.59
	呼 吸 器	153	15.09	0.73
	そ の 他 内 科	77	16.66	0.59
そ の 他		41	11.32	0.54

重点目標・評価と来年度への展開

2014年度は整形外科の開業や病院の増改築の対応など様々な取り組みを行った一年であったが、経営に貢献するという面では課題の残る一年でした。来年度は病棟窓口を中心に病棟との更なる連携を図ることや退院後訪問など実施することで、業務改善を図り、これまで以上に質の高いリハビリテーションを提供するとともに病院経営への貢献にも取り組みます。

学会発表実績

【全国】

学会名	演題	発表者
第15回学術集会 日本関節運動学的アプローチ 医学会理学・作業療法士会	軽度の歩行障害患者に対するAKA博田法の即時効果 ～日本語版改訂 gait efficacy scaleと10m歩行速度を用いての検討～	小川 弘孝
第49回 日本理学療法学会大会	「急性期脳血管障害患者におけるロボットスーツHALの即時効果 ～膝関節自動伸展角度に着目して～」	田代 伸吾
第20回 日本心臓リハビリテーション学会学術集会	「慢性心不全患者における自宅復帰に影響を与える因子について」	川上 章子
第51回 日本リハビリテーション医学会学術集会	「多職種共働による退院前訪問が自宅退院に結びついた慢性腎不全を合併した脳幹梗塞の一例」	下川 善行
リハビリテーション・ケア合同研究大会2014長崎	「急性期病院における廃用症候群による運動機能低下と栄養状態評価の関連について」	田中亜憂美
	「在宅酸素療法の受け入れを目指しチームで取り組んだ一症例」	浦田美智子
	「慢性呼吸不全患者に対する包括的アプローチ」	中島 拓哉
	「周術期がん患者のリハビリテーション」	吉田真奈美

【九州】

学会名	演題	発表者
日本糖尿病学会 九州地方会	「糖尿病患者におけるステップ運動の有用性に関する検討」	岡 亮平
	「糖尿病教育入院に対する退院後の運動療法継続に関する調査について ～退院後アンケートの結果より～」	岡本 愛美
第52回 日本糖尿病学会 九州地方会	「2型糖尿病患者における振動覚低下が運動能力に影響する一考察について」	川上 章子
第34回 長崎地域リハビリテーション塾	「多職種連携により自宅退院を実現できた間質性肺炎末期患者の一症例」	川上 章子
	「重症例の在宅復帰～高齢家族への介助指導を中心～」	野田 舞
九州PT・OT合同学会in佐賀	「既往に大腿切断、心筋梗塞を有し加えて、運動麻痺、失行、失語を呈した脳塞栓症の一例」	田代 伸吾
	「両下肢に長下肢装具を使用した高坐位、立位、歩行訓練により早期に意識障害の改善が 図れた一症例」	吉田 裕志
第21回 長崎県作業療法学会	「急性期脳幹梗塞発症後にロボットスーツHALを使用して歩行獲得を目指した一症例」	中野 隆介
第4回 日本語聴覚士協会 九州地区学術集会 大分大会	「誤嚥性肺炎患者の経腸栄養開始時期と嚥下機能、在院日数の関係」	藤田 祐馬
第45回 県北循環器懇話会	「左下肢切断患者に対するOTの関わり」	木崎 康

講演・学術活動

学会名	演題	講師
長崎県作業療法士協会 身障系県北ブロック勉強会	「呼吸器疾患に対する作業療法」	阿比留 宏
AKA医学会理学・作業療法士会主催AKA博田法 地域技術研修会	「肩関節の評価と治療」 「体幹副運動技術と関節神経学的治療法(ANT)」	小川 弘孝
日本リハビリテーション栄養研究会 第3回九州支部セミナー	「私と臨床研究」	小川 弘孝
リハビリテーション・ケア合同研究大会長崎2014	座長 「ADL支援」	小川 弘孝
ドリームケア事業部 運動プログラム説明支援スタッフ育成研修会		兼石 匠
認知症専門看護師研修会	「認知高齢者の対応と工夫」	嶋田 史子
佐世保市認知症ケア研修会	「タイプ別に見たケアの方法」	嶋田 史子
平戸市地域ボランティア講習会	「認知症って何?その予防と関わり方」	嶋田 史子
長崎県理学療法士協会平成26年度第1回新人教育研修会	「リスクマネジメント」	田代 伸吾
認知症専門看護師研修会	「認知症高齢者への対応について」	橋口 留美
脳卒中リハビリテーション認定看護師養成講座	「脳卒中における急性期・回復期リハビリテーションについて～理学療法士の立場から～」	吉田 裕志
	「摂食嚥下障害」	
長崎県言語聴覚士協会 生涯教育基礎講座	「臨床業務のあり方」	山口めぐみ

【栄養管理部】

栄養管理部の業務は主に「栄養指導」「栄養管理」「給食管理」です。

栄養指導では糖尿病センターでの継続した栄養看護外来を中心に、外来、入院患者さんに対して病態別に栄養指導を行っています。集団栄養指導として糖尿病教室を毎週月～金に開催しています。

栄養管理の充実をはかるため、今年度から管理栄養士を病棟担当制にしました。病棟での栄養管理は入院時の栄養スクリーニングから始まり、定期的なアセスメント、多職種と協働した食形態の適正化、病態を考えた栄養量の確認、食事内容や経腸栄養剤の検討、食事個別化への工夫などです。また毎週金曜日には多職種による栄養カンファランス、回診を行っています。

給食管理については給食委託会社と協力し、イベント食としてコース料理(和・洋・中)の提供を行っています。

主な施設基準

食事療養I

職員配置

	常勤
管理栄養士(常勤)	9人

取得認定資格

管理栄養士……………9名
 NST専門療法士……………1名
 病態栄養認定管理栄養士……………1名
 日本糖尿病療養指導士(CDE)……………3名
 NST専任・専従資格者……………4名
 摂食・嚥下コーディネーター……………3名
 食生活アドバイザー……………1名
 調理師……………1名

活動状況

■ 栄養指導、療養支援・相談、栄養介入件数

栄養看護外来 (療養支援・相談)	3,986件	
入院個別栄養指導	526件	
外来個別栄養指導	914件	
透析糖尿病予防指導	18件	
集団指導(糖尿病教室)	加算件数	134件
	参加延数	1,195人
栄養介入件数	589件	

■ イベント食開催および参加患者数

開催数：9回

(5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、2月、3月)

参加延数：275名

■ 給食内訳

一般食	125,019食
特別食	106,962食

重点目標・評価と来年度への展開

2014年度より栄養管理部は9名体制となりました。栄養管理の充実をはかるため管理栄養士を病棟担当制にし、入院時のスクリーニングから退院までの栄養管理を継続して行うようにしました。担当の栄養士を決めることで集中して担当病棟に関わり、今までより患者の栄養状態や食事摂取状況の把握、関連スタッフとの連携が図りやすくなりました。また定期的にNSTカンファランス・回診を行っており、2015年度からはNSTサポート加算の算定、またスタッフの増員を予定しています。さらに栄養介入の質を上げる必要があり、そのためには個々のスキルアップは重要な課題と考えています。

2015年度は1名がNST臨床実地修練(久留米大学病院)を修了、来年度は2名の管理栄養士が近森病院での3ヵ月間NST研修を受ける予定です。今後は個々のスキルアップが重要な課題と考えています。

学会・研修会への参加実績

学会/セミナー	演 題 名	演 者
日本糖尿病学会 年次学術集会	当院における糖尿病透析予防の評価	貴島左知子
日本糖尿病学会 九州地方会	随時尿から見た外来患者の推定食塩摂取量の現状	貴島左知子
	血糖変動の自己記録による見える化の有用性について	松永 大輝
	糖尿病患者の夏場の水分補給についての実態調査	江口 愛
糖尿病診療を考える会	ブルーサークル患者への管理栄養士の関わり	太田 陽子

【感染制御部】

病院は「病原菌を持った人」と「病気になって免疫が落ちている人」が集中する特殊な環境のため、何も対策がとられなければ感染は起こって当然という環境にあります。感染制御部はこうした危険性を予測し、「病院に関わるすべての人を医療関連感染から守る」ことをモットーに、調査監視を行い、最新の感染防止技術の導入と徹底、感染防止教育などを行っています。

2007年6月1日に感染制御部が新たな部門として設立されました。2011年11月に室長が退職され、CNIC(Certified Nurse Infection Control:感染管理認定看護師)の専従の一人体制でしたが2012年9月より事務員が兼任で配置されるようになりました。多数のICD(Infection Control Doctor:感染制御医)や薬剤師、臨床検査技師、法人内認定感染管理ナース、感染対策委員会メンバーと連携をとって、感染対策を推進しています。

主な施設基準

感染管理加算1
地域連携加算

取得認定資格

- ・感染管理認定看護師
- ・第二種滅菌技師
- ・口腔ケア認定4級
- ・整理収納アドバイザー2級

職員配置

	常勤
専従看護師	1人
事務および兼任スタッフ	4人

活動状況

研修会の開催(一部紹介)

実施日	実施部署・対象	研修内容	講師	参加人数
4月	2日 新入職員全員	院内感染について	奥田 聖子	78名
	2日 新任医師	新任医師感染対策オリエンテーション	奥田 聖子	12名
	4日 看護部新人	院内感染防止対策について・パート1	奥田 聖子	21名
5月	1日 歯科衛生士	院内感染対策について	奥田 聖子	4名
6月	2日 新任医師	新任医師感染対策オリエンテーション	奥田 聖子	3名
	17日 全職員	合同研修会：針刺し事故対策について	木下 昇	313名 431名
7月	1日 中途採用者(院内・院外問わず)	院内感染防止対策について・パート1、2	奥田 聖子	17名
	7日 看護部新人	院内感染防止対策について・パート2	奥田 聖子	21名
	29日 子供探検隊参加者	子供病院探検隊－手洗い博士になろうー	奥田 聖子	29名
8月	11日 中途採用者(院外)	中途採用者感染対策研修	奥田 聖子	16名
	8日 看護補助者	看護補助者研修	奥田 聖子	39名
	11日 12日			
10月	1日 新任医師	新任医師感染対策オリエンテーション	奥田 聖子	1名
	23日 すこやか介護講座	スキルアップ感染対応講座	奥田 聖子	46名
	31日 訪問看護ステーション	在宅での感染対策	奥田 聖子	21名
11月	1日 地域共同学習会	ノロ・インフルエンザウイルスの感染対策について	奥田 聖子	41名
	7日 中途採用者(院内・院外問わず)	院内感染防止対策について・パート1、2	奥田 聖子	9名
	18日 全職員	合同研修会：冬に注意したい感染症	奥田 聖子	262名 480名
2月	14日 長崎県看護協会研修会	組織で取り組む感染管理2	奥田 聖子	27名

■ 2014年度ベストプラクティスの作成

- ①血液培養採取方法
- ②手指消毒の方法(泡タイプ)

■ 感染管理地域連携相互チェック4回

■ 感染管理加算を取得している保険医療機関とのカンファレンス4回

■ ワクチン接種の推進

(HBV・入職時の流行性四疾患の抗体価の確認)

■ インフルエンザワクチン接種率96.7%

重点目標・評価と来年度への展開

2014年は院外研修や公開研修を6回実施し、全部で37回の研修を実施しました。

2015年も院内、院外研修会を充実させ医療従事者の知識と技術の向上に寄与できるように取り組みます。またHBワクチンの接種の推進、及び、インフルエンザワクチンの接種率90%以上など感染が起こりにくい環境の維持に努めます。



学会参加発表実績

日付	学会名
2014年4月12日	感染管理ベストプラクティス研修会 参加【大阪】
2014年4月18日	感染対策研修会 参加【長崎】
2014年5月9日・10日	ICNJ 参加演題発表 【名古屋】
2014年5月31日	第29回感染管理セミナー 参加【福岡】 エキスパートミーティング 参加【福岡】
2014年6月6日～13日	APIC 参加【アメリカ ロサンゼルス アナハイム】
2014年8月31日	感染対策研修会 参加【福岡】
2014年9月20日	神戸滋賀認定看護師終了生研修 参加【大阪】
2014年9月27日	福岡佐賀感染制御研究会 参加【福岡】
2014年10月4日	ICNJ九州沖縄支部研修会 参加【福岡】
2014年10月17日	長崎感染対策セミナー 参加
2014年12月13日	Meet The Expert 参加【熊本】
2015年2月19日	神戸滋賀認定看護師終了生研修会 参加【神戸】
2015年2月20日	環境感染学会 演題発表【神戸】
2015年2月22日	フィットテストインストラクター養成講座 参加【神戸】

【医療安全管理部】

医療安全管理部は、専従医療安全管理者を配置し、院長直轄の独立した部門として組織内に位置します。院内で発生した事例に関して、基本的には当該部署が初期対応し、その内容によっては、医療安全管理部が検証・共有・支援を行います。

主な施設基準

医療安全対策加算1

取得認定資格

医療安全管理者……………1名

職員配置

医療安全管理部	常勤専従	常 勤 専 任 ・ 兼 任		非常勤数
		人数	常勤換算	
総数	2人	16人	8.0人	
診療放射線技師		1人	0.5人	
看護師(専従医療安全管理者)	1人			
事務員	1人			
放射線技術部専任者		1人	0.5人	
臨床検査技術部専任者		1人	0.5人	
リハビリテーション部専任者		1人	0.5人	
医療事務課専任者		2人	1.0人	
健康管理部専任者		1人	0.5人	
システム開発室専任者		1人	0.5人	
医局専任者		2人	1.0人	
看護部専任者		2人	1.0人	
臨床工学部専任者		1人	0.5人	
栄養管理部専任者		1人	0.5人	
資材課専任者		1人	0.5人	
認知症疾患医療センター専任者		1人	0.5人	
薬剤部専任者		1人	0.5人	

活動状況

- ①医療安全教育・研修:「公開研修」および「新入職員・中途採用者対象安全研修基礎I~Ⅲ」開催
- ②安全教育教材の作成:共有事例に関するe-learning教材の作成
- ③合同研修会の開催:第11回開催(6月17日)、第8回開催(11月18日)
- ④白十字会グループ安全管理協議会の企画・運営・実施

重点目標・評価と来年度への展開

- ・ 患者さん(ご家族)への安全安心情報伝達
- ・ 医療安全対策加算の体制維持
- ・ 医療安全リスクコストの明確化
- ・ 医療安全管理部の体制改善
- ・ 白十字会グループ協議会における医療安全活動の推進
- ・ 職員教育の充実
- ・ 職員の安全に対する意識向上
- ・ 事例対策の評価

学会発表実績

学 会 名	発 表 演 題
日本医療マネジメント学会長崎支部学会学術総会	専従安全管理者の活動報告

講演(講義)活動

主催および会場	演題および講演内容
長崎県看護協会	研修Ⅰリスク感性を磨く～日々の看護業務を通して～
十善会病院(愛媛)	医療安全
光風(香岐)	医療安全シリーズ研修 事例分析
総合メディカル会員セミナー(北九州)	「多職種で取り組む“生きる”医療安全」
総合メディカル会員セミナー(広島)	「多職種で取り組む“生きる”医療安全」
第一三共株式会社	医療安全教育
長崎大学シーボルト校	看護管理・安全
みさかえの園 むつみの家(諫早)	医療安全 メディエーションスキル
九州文化学園高等学校衛生看護科専攻科	医療安全
九州文化学園高等学校衛生看護科	看護と安全
鹿児島放射線技師会	医療安全研修会・危険予知(鹿児島)
長崎県看護協会南支部会リスクマネージャー交流会	リスクマネージャーの役割と業務 ～伝えたい 知恵と技～
医師会看護学校・安全研修(卒前)	医療安全

【臨床研究管理部】(治験管理室)

治験管理室における治験事務局業務(治験審査委員会事務局を兼ねる)および治験コーディネーター(CRC)業務に基づいて治験を管理・支援する機能の他、臨床研究を管理・支援する機能を有し、治験による先端医療の提供・次世代の新薬開発への協力および臨床研究のサポートを通じて、社会医療法人として社会的責任の一端を果すため日々活動しています。

職員配置

	職 種	常 勤	非常勤	派 遣
臨床研究管理部	薬剤師	1人		
	助 手 ^(※1)		2人	
治験管理室	C R C ^(※2)			6人

(※1) リウマチ膠原病領域と糖尿病領域の研究のデータ・マネジメントを担当

(※2) CRCは、SMO(治験実施施設支援機関)との契約に基づく派遣。(治験事務局業務担当を含む。)

取得認定資格

JASMO公認CRC^(※3).....5名

(※3) JASMO公認CRCは、日本SMO協会が優れた資質向上を目的に、認定試験に合格したCRCを臨床試験のスペシャリストとして公認するものです。

活動状況

	疾患領域	契 約 試 験 数		契 約 症 例 数		実 施 症 例 数					
		継続	新規	継続	新規	継続	新規				
① 治 験	リウマチ膠原病 ^(※4)	継続	17	計26	継続	103	計146	継続	88	計113	
		新規	9		新規	43		新規	25		
	SLE	継続	2	計4	継続	6	計10	継続	4	計6	
		新規	2		新規	4		新規	2		
	糖尿病	継続	1	計4	継続	6	計21	継続	5	計12	
		新規	3		新規	15		新規	7		
	呼吸器疾患	継続	0	計1	継続	0	計3	継続	0	計1	
		新規	1		新規	3		新規	1		
			合 計		35	合 計		180	合 計		132
	② 新規治験スタートアップ会議の開催件数					計10回(RA:5、SLE:2、DM:3)					
	③ RADM臨床研究のデータマネジメントに関する実績					11研究分 (1,414症例)					
	④ 医薬品製造販売後調査(PMS)などの新規契約件数					年間17件					
⑤ 治験審査委員会・倫理委員会の活動状況					各委員会の項を参照						
⑥ 臨床研究管理部通信(院内報)の発行実績					年間12号(毎月1回)発行						

(※4) 今期において開発中止となった5試験(契約25症例)を含む。

■ 臨床研究管理部の業務

1. 治験の管理および支援に係る業務
2. 臨床研究の管理および支援に係る業務
3. 医薬品製造販売後調査 (PMS) の管理および支援に係る業務
4. 治験審査委員会の運営に係る業務
5. 倫理委員会の運営に係る業務
6. 臨床研究の各種指針の教育・啓蒙に係る業務
7. その他の業務

■ 治験実施医療機関の要件 (GCP省令より)

- ※当院は、この要件を満たしています。
- ・十分な臨床観察・試験検査を行う設備・人員を有していること
 - ・緊急時に被験者に対して必要な措置を講ずることができること
 - ・治験審査委員会が設置されていること
 - ・治験を担当する医師、薬剤師、看護師、CRCなどの必要な職員が十分に確保されていること

■ 院内講演会

12月25日に第3回学会賞等受賞記念学術講演会を開催しました。

重点目標・評価と来年度への展開

■ 重点目標・評価

今期の治験(継続+新規)の契約試験20件と契約症例180例(開発中止に伴う目標下方修正)を維持するとともに、RA領域における最新治療の安全性・有効性に関する多施設共同臨床研究に参画し、目標は問題なく達成しました。

■ 来年度への展開

来期の治験(継続+新規)の契約試験25件と契約症例180例を維持するとともに、RA領域の多施設共同臨床研究のサポートを継続して行います。また、臨床研究の新たな統合理論指針が求める手順書の啓蒙と運用の定着を図り、適正な臨床研究に向けてサポートします。さらに、ホームページを情報発信先ごとに整理・充実してリニューアルします。

学会・研修会への参加・開催実績

■ 共同研究による論文発表の実績

ARD ^(*5)	Effectiveness and safety of tocilizumab therapy for patients with rheumatoid arthritis and renal insufficiency: a real-life registry study in Japan (the ACTRA-RI study) [Jan.2015]
---------------------	---

(*5)ARD(=Annals of the Rheumatic Diseases)は、リウマチならびに結合組織疾患全般を対象としたオリジナル論文を掲載するEULAR公式機関誌。

■ 学会・研修会への参加実績

日 付	研 修 会 名
2014年6月7日	CCR臨床研究講習会
2014年10月4~5日	CRCと臨床試験のあり方を考える会議2014 in浜松
2014年11月21日	日本病院薬剤師会 治験事務局セミナー2014
2015年2月14日	JASMO第28回継続研修会 in福岡

【事務部】

◎医療事務課

「病院の顔」として、最初(受付)と最後(会計)に患者さんと接し、病院の印象を左右する部署であり、常に「おもてなしの心」を忘れずに患者さんと接するように努めています。また、診療費請求においても、迅速かつ正確な請求ができるように、日々、努めています。

2014年度目標は、『心機一転』であり、初心に返り、様々なことに対し、改めて新鮮な目や考えをもつことで、現在の接遇ならびに業務にプラスαを加え、より良い効果を生み出すことに取り組みました。

◎診療情報管理課

さまざまな情報を一元管理し、業務の効率化を図り、診療情報を安全に管理することを重視し、医療の質の向上を図るとともに診療情報の点検ならび有効活用、提供などに努めています。

職員配置

	常勤	非常勤
医療事務課	35人	9人
診療情報管理課	3人	

取得認定資格

ホスピタルコンシェルジュ(3級)……………16名
 診療情報管理士……………8名
 医療秘書技能検定(準1級)……………1名
 医療秘書技能検定(2級)……………8名
 医療秘書技能検定(3級)……………7名
 診療報酬請求事務能力認定試験……………5名
 医療対話推進者……………1名

医療事務課業務内容

外来 医事 係	受 付	患者さんの状況を確認しながら、迅速かつ的確な受付を行っています。
	コ ー ル セ ン タ ー	「声で笑顔を伝える」をモットーに、診療科と連携を取り予約受付を行っています。
	オ ペ レ ー タ ー	外来患者さんの診療費計算を迅速かつ正確に行っています。
	会 計	窓口での支払いや医療費相談の対応、日々の会計管理を行っています。
	書 類	書類作成システム(パピルス)を活用し、書類依頼・発行・交付業務を行い、各種公費申請の手続きを行っています。特定疾患更新時期には約700件の処理を行っています。
入 院 医事 係	未 収	請求・入金・未払金額の管理をし、未払者の対応を行います。また、入院時預り金の管理、入院予定患者さんへの高額療養費や限度額認定証等の情報提供を行っています。
		退院前日の患者さんへ概算入院診療費のお知らせを行います。また、入院中の患者さんに対し限度額適用認定証の説明や、診療費に関してのご相談も随時行っています。DPCに係るデータの提出を厚生労働省へ行っています。
診療情報管理課業務内容		
院内外の各種調査やアンケートに対するデータ提出や原価計算を用いたクリティカルパスの検証を行っています。		

課内におけるワーキンググループ

顧客満足 の視点チーム	職員間の感謝の気持ちを伝える「和レター」を始めとし、朝礼時の接遇練習やクリスマスコンサートなどの季節ごとの行事にも力を入れ、患者サービス向上や職員間のコミュニケーションを円滑にするために活動を行っています。また、主な検査料金などを記載した「診療費料金表」を各部署に常備し、その作成・更新を行っています。診療科などの要望に応じて、随時診療費料金表を追加・訂正しています。
査定対策 チーム	レセプトのチェック漏れを防ぐ事を目的とし、査定結果を分析し、分析結果や注意事項を課内で共有する活動を行っています。
財務・病院機能 の視点チーム	正確な請求を行うために、月ごとに請求誤りの報告をし、個別指導や勉強会を行っています。
学習と成長の 視点チーム	専門知識向上を目指し、課内での有資格者による勉強会や他部署の方への研修を行っています。

重点目標・評価と来年度への展開

■ 広報誌発行と多職種協働

職員に医療制度や診療報酬点数に関する情報提供を行い、医療事務課の活動内容を広報・周知するために2014年度は広報誌を4回発行しました。また、患者さん向けにも広報も展開いたしました。2015年度は多職種協働を掲げ、さまざまなことに参画し、診療部をはじめとする医療業務のスムーズな運営ならびに環境整備に努めたいと思います。

■ 保険診療説明会(全職員対象)

当院は「臨床研修指定病院」です。臨床研修病院入院診療加算を算定するにあたり、全職員を対象に年2回以上「保険診療に関する講習」を開催することが義務付けられています。2014年度は、5月13日・3月20日に開催しました。

■ 病棟訪室・退院支援カンファレンスへの参加

患者さん・ご家族の不安解消に少しでも繋がればとの思いから新たに『ご入院された患者さんの元へ医療事務課職員が訪室し、高額療養費の案内や療養中の質問・相談などを伺うこと』に取り組んでいます。また、看護部ならびに多職種協働で開催される退院支援カンファレンスにも参加しています。

2015年度は2014年度と同様に診療部門との連携を深め、診療報酬におけるさまざまな情報提供はもちろん、事務職の専門知識を活かし、診療部支援ができる存在であり続けるように努めます。また、患者さんに対しても、役立つ情報の提供をしていきたいと思っています。



◎医局秘書課

電話交換、医局受付、病歴管理(物的)、医療情報プラザ(図書室)運営、ドクター秘書業務、糖尿病センター秘書業務、安全管理部・感染対策室補佐業務を行っております。医療情報プラザは患者図書室として、患者さんがご自分の病気の理解を深め、治療に参加していただくことをコンセプトに、患者さん向けの医学書を設置しております。

また、当部署は医師の様々なサポートをしております。特にドクター秘書は、医師の医療行為に付随する事務的作業のほとんどを担っており、医師の負担軽減に貢献しています。

主な施設基準

医師事務作業補助体制加算2 15対1

職員配置

	常勤	パート職員
事務職	5人	4人
事務職(医療情報プラザ)		1人
ドクター秘書	2人	35人
計	7人	40人
総数	47人	

取得認定資格

ドクターズクラーク……………17名
 医療事務管理士……………2名
 医療事務技能審査(2級)……………2名
 診療報酬請求事務能力認定……………1名
 ホスピタルコンシェルジュ(3級)……………1名
 秘書技能検定(準1級)……………2名
 秘書技能検定(2級)……………23名
 サービス接遇検定(2級)……………1名
 介護事務管理士……………1名
 調剤事務管理士……………2名
 メンタルヘルスマネジメントⅡ種……………1名
 電話検定知識A級……………1名

活動状況

電話交換業務

2014年度着信本数(平日のみ)	54,576件
お待たせコール作動本数(5回コールにて作動)	348件

ドクター秘書業務

退院サマリー	4,079件/年
書類・診断書	8,189件/年
症状詳記	325件/年
NCD(手術登録)	971件/年



診療補助(電子カルテの代行入力)の様子

医療情報プラザ

利用状況

利用者数	6,576人
貸出数(医学書)	387冊
貸出数(一般図書)	1,787冊
プラザ用医学書購入数	21冊

開館：平日 9:00~12:00 13:00~17:00

第3土曜日 9:00~12:00

医療情報プラザでは、来館が困難な入院患者さんやご家族にもご利用いただけるよう、本のデリバリーサービスを行なっています。また、来館者にくつろげる環境を提供するために、季節を感じられるような飾り付けなども工夫しています。



重点目標・評価と来年度への展開

2014年度は、2013年度に引き続きドクター秘書向けの他部門による院内レクチャーを計画しておりましたが、職員の退職などで自部署のサポートに追われ、残念ながら実現できませんでした。2015年度は新人育成なども控えておりますが、自らのスキルアップも目指して積極的に取り組んでいきたいと思っています。

また、電話窓口の顔として好印象を持っていただけるよう、勉強会などにも時間を費やし、電話対応のスキルアップに努めたいと考えています。

◎資材課

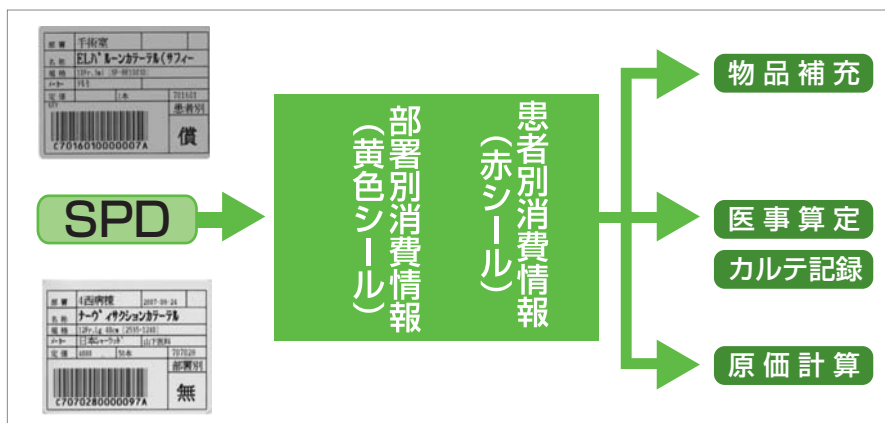
法人内(佐世保地区)で使用する全ての医療材料・消耗品・印刷物・医療機器などの購入(いわゆるバイヤー業務)を担当している部署です。法人唯一の購買担当・物品管理部署として、正確かつ迅速な物品供給業務を行っています。

また、適正なコスト管理・在庫管理にも力を入れており、業務の合理化およびコスト削減、コストパフォーマンスの向上を推進しています。

当法人ではSPDシステムを導入しており、物品や業務の標準化・物流の効率化を図り、購買情報・在庫情報・消費情報の一元管理が可能となっています。SPDシステムは2003年より導入し、当時は外部委託運用なしの院内SPDで既存ベンダーパッケージを採用していました。

その後、電子カルテ体型のSPDシステムの開発を模索し、2007年に自社開発の新電子カルテシステム「HOMES」と連動した独自の新SPDシステムが稼働しました。新SPDシステムでは、材料使用(消費)を登録する事で、補充だけではなく電子カルテへの記録、医事算定、原価計算との連動が可能となっています。

消費(=物品使用)情報の流れ



職員配置

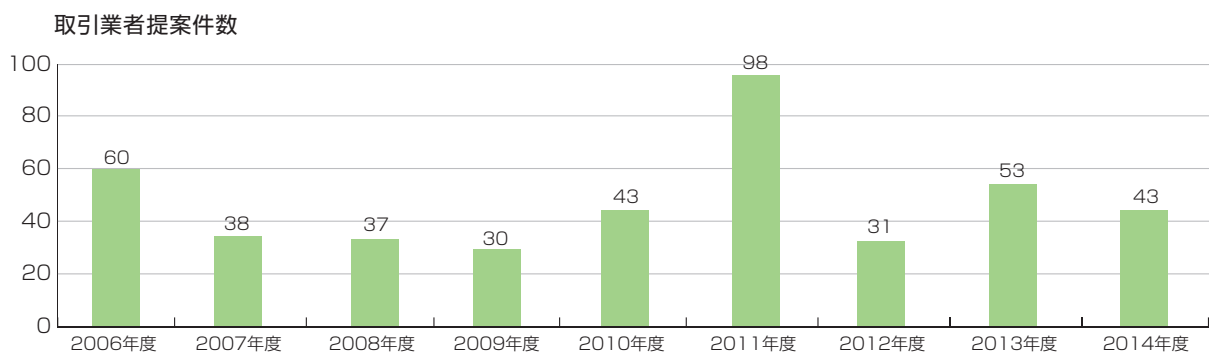
資材管理本部長	主任	課員	合計
1人	1人	5人	7人

活動状況

■トータルコストダウン活動について

2002年度よりトータルコストダウン活動を継続的に推進しています。しかし、資材課職員による交渉のみではコストダウンに限界があるため、取引業者からの新商品・同等品提案や、職員からの提案を広く受け付けています。職員や協力会社を巻き込んで「良いものをより安く」調達する事により、より高いコストパフォーマンスを追求しています。

これまでの取引業者からの提案件数およびコストダウン実績は以下の通りです。



■コストダウン実績

単位：円

	資 材	施 設	合 計	目 標	達成率
2002年度	20,192,504	4,448,669	24,641,173	20,000,000	123%
2003年度	11,610,577	1,150,060	12,760,637	12,000,000	106%
2004年度	7,455,839	4,984,400	12,440,239	8,000,000	156%
2005年度	22,234,222	13,579,270	35,813,492	12,000,000	298%
2006年度	29,001,476	1,429,850	30,431,326	10,000,000	304%
2007年度	11,494,506	1,313,200	12,807,706	10,000,000	128%
2008年度	5,253,240	2,405,000	7,658,240	7,000,000	109%
2009年度	7,379,245	0	7,379,245	6,000,000	123%
2010年度	6,133,323	0	6,133,323	6,000,000	102%
2011年度	7,435,757	0	7,435,757	6,000,000	124%
2012年度	5,687,719	0	5,687,719	5,000,000	114%
2013年度	5,075,575	0	5,075,575	5,000,000	102%
2014年度	6,149,195	0	6,149,195	4,000,000	153%

重点目標・評価と来年度への展開

2014年度は関連施設の新規開設、整形外科医師着任、佐世保中央病院南館増築および本館改築と物品調達の手続きが多く、また調達する物品の品目、数量も多量となりました。また、4月～7月にかけてそれらの準備が重なる期間が発生し、近年まれにみる多忙な年となりました。(下記スケジュール表参照)

誰もが経験したことのない業務量でしたが、年度途中で1名増員したこともあり、大きなトラブルなく新規開設、南館増築は終了致しました。本館改築については現在も続行中ですが、ほぼトラブルなく終了する見込みです。通常業務に加えてやや負担が大きかった年度ではありましたが、2015年度も残りの改築スケジュールに沿った無駄のない物品購入を行っていきたいと考えております。

■新規開設、増築等スケジュール

	4月	現在	5月	6月	7月	8月		
佐世保中央病院 (南館増築)			見積り			竣工 6/30	引き渡し 7/1	運用開始 8/1
佐世保中央病院 (本館改築)							着工	
DSのぞみ DSサンライズ 訪問看護ST			見積り		竣工 引き渡し 6/11～	開設 7/1		
24時間対応 ヘルパー ステーション			見積り	納品	開設 6/1			
整形外科			見積り		医師 着任 6/2			
				納品				

◎施設課

患者さんや職員の方々が安全快適に過ごしていただけるよう災害安全対策や院内外設備（電気設備、空調設備、防災設備）などの維持管理業務を行っています。また公用車運用管理や送迎業務を行っています。

職員配置

施設管理本部	施設管理室	施設課	
1人	1人	9人	
		設備管理員(5名)	車両管理員(4名)

■設備管理

院内外すべての設備機器の管理及びメンテナンス業務を行い、常に監視し不具合等の早期発見に努めております。また地球温暖化を意識した省エネ機器の新規導入や適正な設備運用にも心がけています。

空調設備： 防災センターより主要空調の一括監視及び操作、定期的なメンテナンス業務を行っています。

衛生設備： 最新の衛生器具の管理及び給排水設備のメンテナンスを行っています。

電気設備： デマンド制御により電力の管理及び省エネ対策としてLED化の推進を行っています。

防火防災設備： 院内の防火設備メンテナンスと年間を通し防火訓練と防災訓練の指導を行っています。

営繕・修理： 上記の設備以外でも建物の修繕や、職員からの修理依頼等も行っていきます。

■車両管理

公用車・駐車場の維持管理および整備を行い、当院をご利用にされる方々やドクターならびに職員の送迎も行っています。

■防火・防災・防犯対策

防火・防災対策： 防火教育（年30回）、防火避難訓練（年4回）地震対策訓練（年1回）
大規模災害訓練（年1回）

防犯対策： セキュリティーの強化としてガードマンの増員配備、管理区域の電子施錠、防犯カメラの設置

※詳しい内容は、P176防火管理委員会をご参照ください。

■環境対策

1.感染症対策

各病棟には、気化式埋込型加湿装置を導入設置しインフルエンザ予防対策に努めています。また南館1階に設置している感染外来をはじめ各病棟には、陰圧の部屋を設置し院内感染予防にも努めております。

2.省エネ対策

佐世保中央病院は、2008年の省エネ改正により第2種エネルギー管理指定工場とされ省エネルギーに努めることになりました。

省エネ活動

- ・省エネ委員会の設立
- ・デマンド制御による電力の管理
- ・LED化の推進
- ・適切な空調管理・運用
- ・省エネの啓蒙（全体研修講演）など

患者様の入院生活や職員の業務に支障がないよう心がけて取り組んでいます。

※詳しい内容は、P184省エネルギー推進委員会をご参照ください。

重点目標・評価と来年度への展開

ミッション： 白十字会の施設（建物・設備）を利用する人々（顧客）のために、良質な施設とサービスを効率的に提供する。

ビジョン： 時代のニーズに的確に対応し、ミッションを全うするために、施設課の組織と施設課職員の能力を常に高める。

◎システム開発室(法人本部:医療情報本部)

システム開発室は白十字会グループの医療情報本部に所属し電子カルテをはじめとした医療情報システムの開発/運用、法人各施設およびグループ施設のICT(情報通信技術/設備)に関する業務分析、システム設計、プログラム製造/改修、システム運用/管理を行っています。

職員配置

常勤	事務	非常勤	出向	合計
11人	1人	1人	1人	14人

取得認定資格

資格	資格	人数
ICTプロフィシエンシー検定試験(旧パソコン検定)	ICTプロフィシエンシー検定協会(旧パソコン検定協会)	1名
初級医療情報技師	JAMI(一般社団法人医療情報学会)	5名
応用情報処理技術者	IPA(独立行政法人情報処理推進機構)	2名
医療情報システム監査人	MEDIS-DC(一般財団法人医療情報システム開発センター)	1名
秘書検定2級	公益財団法人実務技能検定協会	1名
ITパスポート	IPA(独立行政法人情報処理推進機構)	1名

活動状況

■中央病院

- ◎HOMESハードウェア暗号化、監査機能、遠隔バックアップ稼動
- ◎地域連携(クロスネット・メディカルネット)サーバ更新
- ◎HOMESノート端末・デスクトップ端末更新
 - ・Windows7端末、ノート40台、デスクトップ330台
- ◎中央病院 医事システム更新
 - ・Windows7端末、ワイドモニター化
- ◎退院支援システム(中央・白十字)運用開始
- ◎ベンダーシステムの遠隔バックアップへの対応アンケート実施
 - ・遠隔バックアップ対応可能状況調査

- ◎職員向け操作説明ビデオの制作
 - ・11本

- ◎HOMES内部監査の実施
 - ・3月10日実施
- ◎個人情報保護研修の開催
 - ・11月18日実施
- ◎部門内勉強会の実施
 - ・2回開催(9月6日,1月17日)

■燿光リハビリテーション病院

- ◎燿光リハビリテーション病院へのPACSクラウド導入
- ◎地域連携(クロスネット・メディカルネット)サーバ更新

重点目標・評価と来年度への展開

	2012年度 (実績値)	2013年度 (実績値)	2014年度 (実績値)
HOMES職員満足度調査の結果(5点満点)	3.7	3.6	3.6
法人内他施設訪問回数(セキュリティ面での確認等)	9	17	28

- ◎最新の開発環境構築及びプログラムの移植作業
- ◎生体認証技術の検証・評価
- ◎データ二次利用環境の整備及び情報の提供
- ◎介護システム一元化に向けた作業計画策定

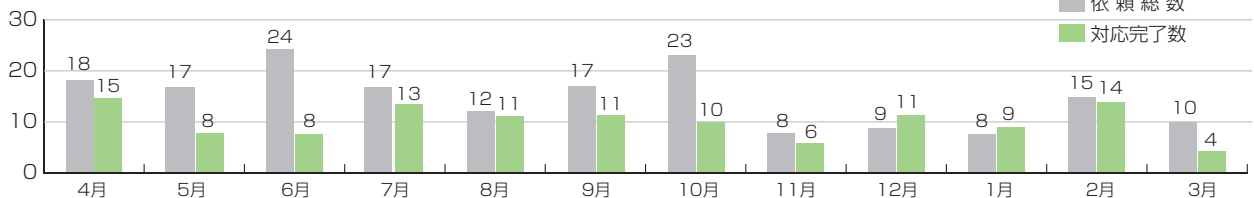
■学会・研修会への参加実績

学会名	演題	発表者
第34回医療情報学連合大会	ガイドラインに沿った医療情報システムのサーバ更新	南里忠広

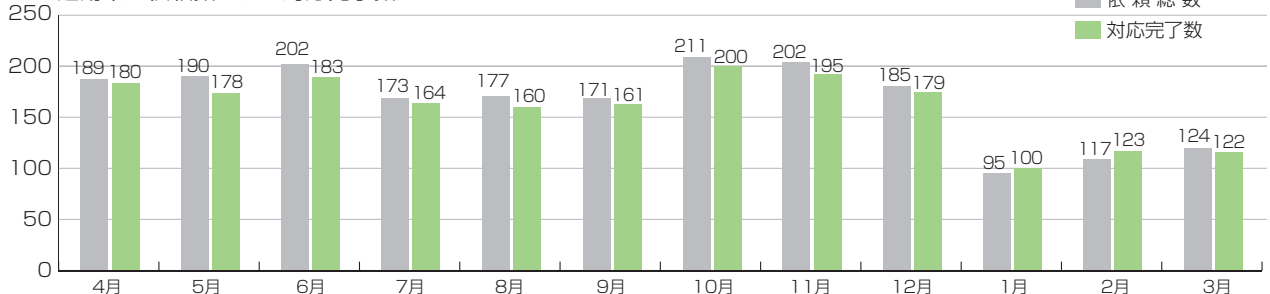
■学会・研修会への参加実績

学会・研修会等	
第18回日本医療情報学会春季学術大会	
第34回医療情報学連合大会	
第16回日本医療マネジメント学会	

開発系の依頼数および対応完了数



運用系の依頼数および対応完了数



◎総務室・財務室・人事管理室

2014年6月に総務課・財務課は、総務室、財務室、人事管理室へと名称及び組織変更がありました。業務内容ですが、総務室では給与計算・各種労務管理・各種手続き・人事考課・福利厚生・契約業務などを担当しています。財務室では、現金・預貯金管理業務、収支月表作成、収益の計上、各種経営資料の作成、企業年金基金等の業務を担当しています。人事管理室では、人事考課・各種研修を担当しています。

職員配置

	常勤	非常勤
総務室	7人	2人
財務室	5人	1人
人事管理室	2人	
総数	14人	3人

取得認定資格(今年度取得者)

秘書検定(2級)……………1名
 ビジネス電話実務検定(3級)……………1名
 ビジネス文書検定(3級)……………1名
 ビジネスキャリア検定(3級)……………1名
 サービス接客検定(1級)……………1名
 サービス接客検定(2級)……………1名
 サービス接客検定(3級)……………1名

活動状況

■総務室・財務室・人事管理室ニュースの発行

「総務課・財務課ニュース」も「総務室・財務室・人事管理室ニュース」へとリニューアルし、引き続き法人内各施設のニュースや、出張費コストダウン、えらべる倶楽部の利用方法など、職員の皆さんにさまざまな情報を提供しています。

■福利厚生関連

職員の皆さんに喜んでもらえて利用しやすい福利厚生制度を目指して、色々なサービスを提供しています。「白十字むつみ会」では、恒例となっているレクリエーションを2014年6月15日、佐世保東部スポーツ広場体育館にて「ソフトバレーボール大会」を開催し、法人内各施設より34チーム、300名を超える職員が参加しました。

また、「えらべる倶楽部」では、宿泊補助、映画鑑賞補助やジェフグルメ券補助など、白十字会オリジナル特典もあり、多種多様なサービスを受けることができます。

■各種研修の開催

人事管理室では、『人財』育成のため、それぞれの立場に応じた各種研修を開催しています。

・階層別研修

新入職員研修、フォローアップ研修(1年次、2年次、3年次)

・OJT研修(新入職員担当者を対象とした研修)

新指導者研修、フォローアップ研修(前期・後期)

・リーダー研修(所属長・部門長から推薦のあった者を対象とした研修)

初級、中級

・監督者研修(監督の任に携わっている者を対象とした研修)

新任監督者研修、監督職員としての立場・役割・業務への「行動面と意識の改革」についての研修など

・管理者研修(管理の任に携わっている者を対象とした研修)

新任管理者研修(ベーシック、アドバンス)

医療関連組織の特徴と管理者の役割

職場活性化マネジメント メンタリングマネジメント

・選択型研修

クレーム対応の基本、タイムマネジメント(連続)、プレゼンテーション(伝達力)

リーダーを目指す女性のためのマネジメントのこつ、伝える～伝わるへ

重点目標・評価と来年度への展開

新たな福利厚生「えらべる倶楽部」がスタートしました。ガイドブックやイントラでの案内をしましたが、利用率が伸び悩みました。利用方法が解りにくいという声が多きかれました。来年度は、説明会の開催やわかりやすいチラシの作成などで利用率アップを目指します。

【地域医療連携センター】

当院は、地域の医療機関との連携を深め、より一層地域医療の充実を図るため、地域の医療機関に入院病床やCT・MRIなどの医療機器を開放し共同で利用することができる「開放型病院」として、また地域の医療機関からご紹介いただいた患者さんに、より詳しい検査や専門的な治療をおこなう「地域医療支援病院」として運営を行っています。

地域の医療機関からの紹介患者様の診療予約サービスや、開放型病床における共同指導、地域の医療機関に広く情報を提供するメディカルネット99とよばれるシステムの運用などを通して、患者さんの診療情報を地域医療機関と共有し、より円滑な紹介受入れ、当院から地域医療機関へ患者さんのご紹介を行うことで、地域住民の皆様が一貫した診療体制の中で安心して治療していただけるよう努力しております。また、退院後も安心して生活していただけるよう、医療ソーシャルワーカーが、介護保険等の各種制度のご案内や各種の医療福祉施設のご紹介、また経済的なご相談をお受けするなど、患者さんを支援しています。

また、地域連携パスの実施状況、ベッド稼働の状況などの各種データ統計も地域医療連携センターの重要な役割であり、合わせて紹介患者いかに問わず当日の入院依頼におけるベットセンターの機能も有しています。

職員配置

医師	看護師	医療ソーシャルワーカー	事務職員	合計
1人(兼任)	1人	7人	6人	12人

活動状況

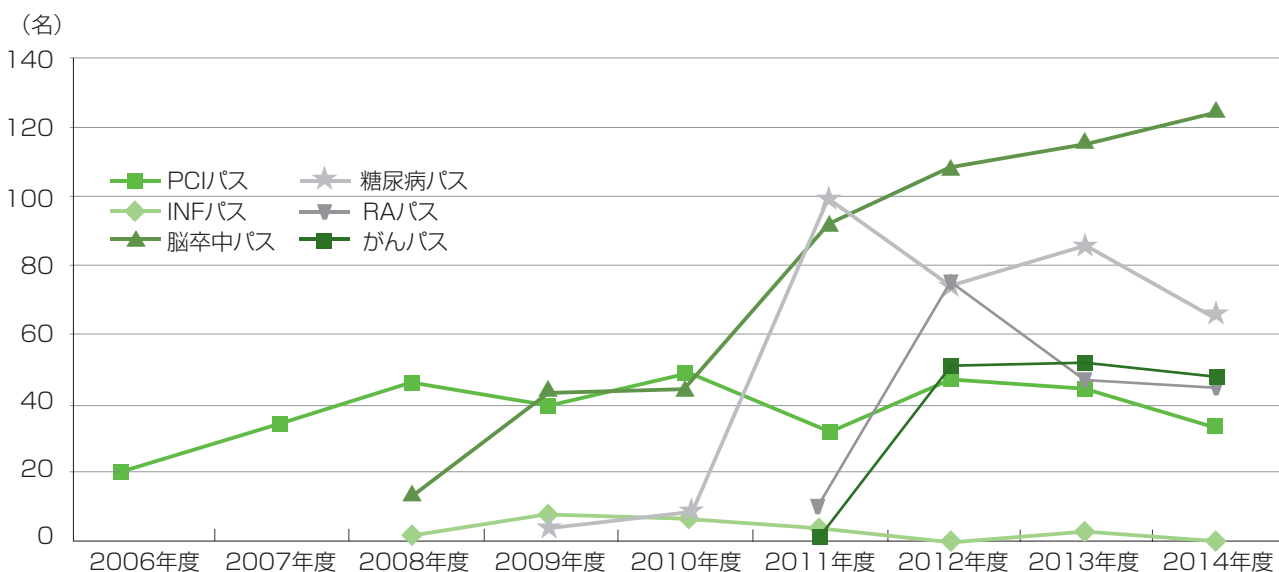
紹介率など各種の統計についてはP40病院概要をご覧ください。

重点目標・評価と来年度への展開

2014年度は在宅支援診療所との関係をさらに強化すべく、入院希望患者の事前サマリをいただくなど、在宅連携を推し進めました。

また、今後は病棟の退院支援看護師と協働し、医療ソーシャルワーカーを中心に、より早く患者さんの問題解決をお手伝いすることにより、早期の退院や、在宅医療へのスムーズな移行を促していきます。

■地域連携パス新規導入患者数推移



	運用開始時期	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	計
P C I パス	2006年5月	20	26	43	40	44	33	45	43	33	294
I F N パス	2008年8月			1	8	6	3	0	1	0	19
脳卒中パス	2009年2月			17	42	42	92	108	114	128	415
糖尿病パス	2009年8月				5	8	96	75	81	65	265
R A パス	2011年7月						8	77	42	43	127
がんパス	2012年3月						1	49	49	47	99
合計		20	26	61	95	100	233	354	330	316	1219

P C I パス：2014年度は導入数が若干減少した。

I F N パス：今年度は新規導入無し。

脳卒中パス：症例数に伴い、増加傾向。順調に推移。

糖尿病パス：2014年度は導入数が若干減少。運用に関しては順調。

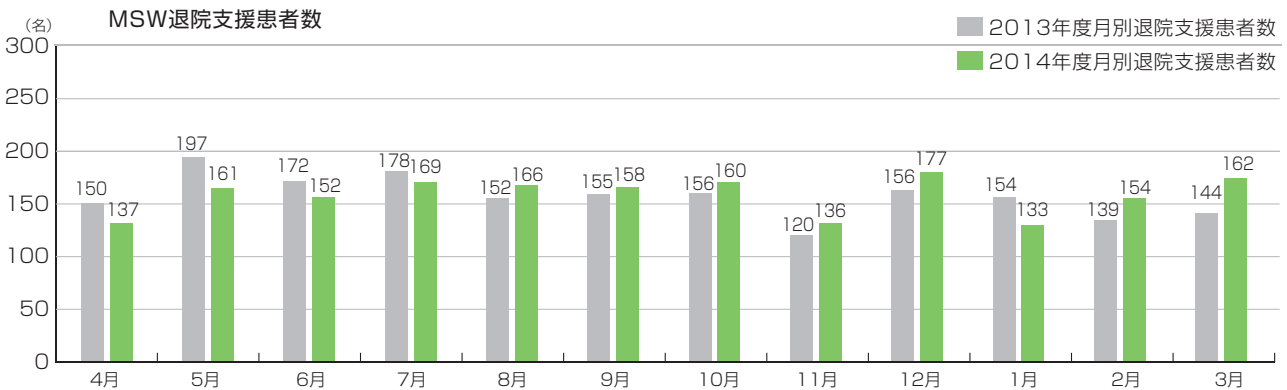
R A パス：昨年度並みで推移。

がんパス：2014年度も例年並みで推移。乳がんパスが主体。

MSW活動報告

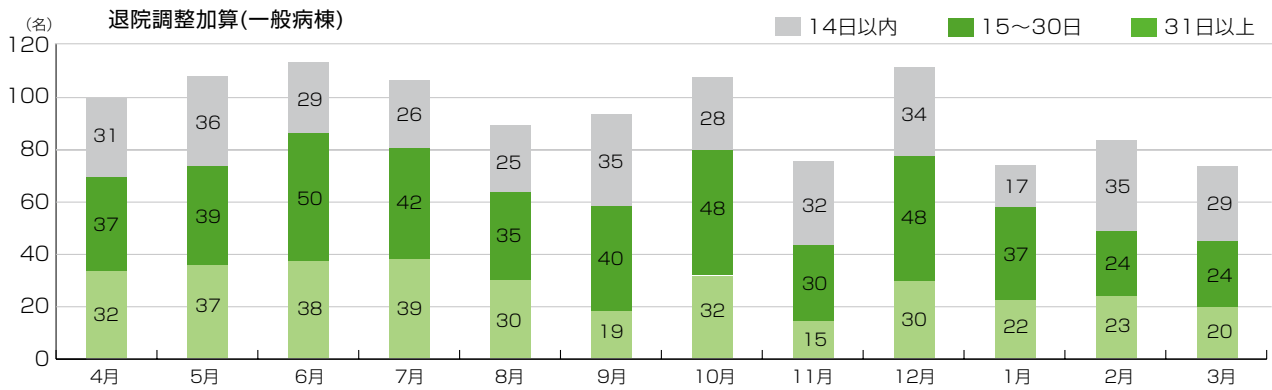
MSW退院支援介入件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2013年度退院支援患者数	150	197	172	178	152	155	156	120	156	154	139	144	1,873
2014年度退院支援患者数	137	161	152	169	166	158	160	136	177	133	154	162	1,865



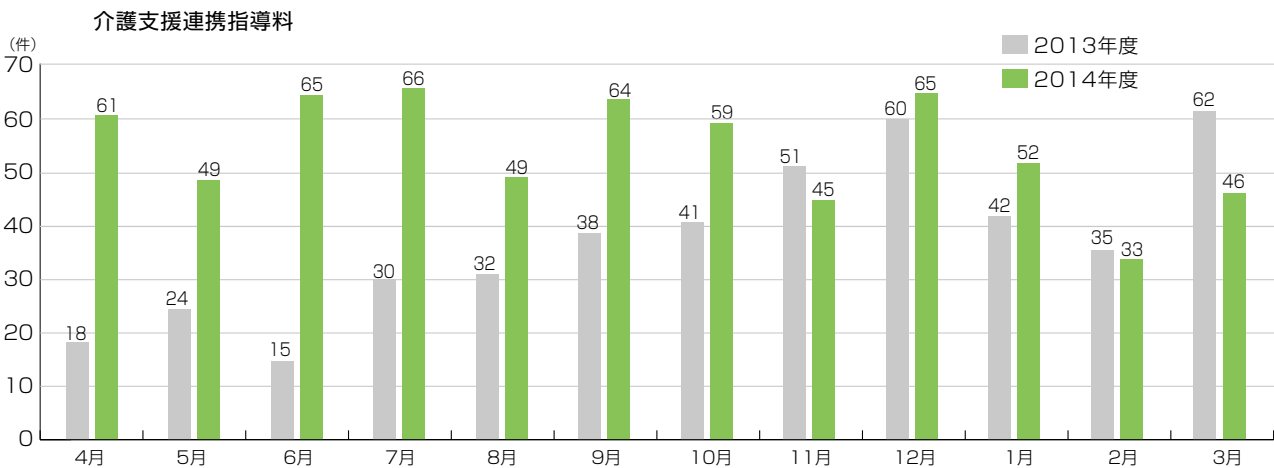
退院調整加算(一般病棟)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2013年度	14日以内	6	3	5	12	15	21	38	33	35	39	35	27	269
	15日～30日	8	14	13	18	16	33	38	37	48	34	35	44	338
	31日以上	12	15	14	12	26	25	32	32	28	35	36	38	305
	合計	26	32	32	42	57	79	108	102	111	108	106	109	912
2014年度	14日以内	32	37	38	39	30	19	32	15	30	22	23	20	337
	15日～30日	37	39	50	42	35	40	48	30	48	37	24	24	454
	31日以上	31	36	29	26	25	35	28	32	34	17	35	29	357
	合計	100	112	117	107	90	94	108	77	112	76	82	73	1,148



介護支援連携指導料

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	18	24	15	30	32	38	41	51	60	42	35	62	448



患者相談実績

患者数	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
合計	1,562	2,095	1,768	1,598	1,873	1,865

(相談患者実数)

患者相談内容	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
① 経済的相談	128	119	150	198	121	111
② 生活の場の設定相談	55	33	25	56	301	440
③ 転院相談	577	697	702	708	709	959
④ 在宅療養の相談	463	533	561	584	1,144	1416
⑤ 受診・受療相談	130	92	96	103	186	230
⑥ 疾病理解・傷害受容相談	99	55	66	71	65	141
⑦ 人権に関する相談	170	90	99	89	31	87
⑧ 就労・教育・社会復帰相談	19	28	38	40	25	45
⑨ 心理相談	553	561	484	587	632	957
⑩ 関係機関(者)との調整相談	1,690	2,122	2,231	2,251	2,893	3231
⑪ 医療福祉制度相談	790	1,142	1,280	1,180	1,420	731
⑫ がん・難病疾患相談	972	1,142	1,268	1,346	1,422	1321
合計	5,646	6,614	7,000	7,213	8,949	9,669

(相談延べ件数)

【健康管理部】(健康増進センター)

佐世保中央病院に併設された施設で、2002年に白十字会医療社会事業部から現在の健康増進センターへ移行しました。健康診断の専門施設として、ゆとりのある空間での快適な受診環境が整備されています。

ドック基本項目の上部消化管検査と乳がん子宮がん検診などを除いては、ワンフロアで受診可能な環境となっています。人間ドック健診をはじめ、さまざまな健診において、日本消化器病専門医、日本医学放射線学会専門医、日本内科学会認定内科医、検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師など、各専門スタッフが担当し、健診の質の確保を図っています。

また2008年12月に運営の合理性など、第三者による客観的な評価として、人間ドック学会の健診施設機能評価を受審し、認定を取得することができました。これからも業務内容と環境の両面での見直しを行い、利用者目線で質とサービスの向上に取り組んでいきます。

認定施設

- 人間ドック学会健診施設機能評価(Ver.2)認定施設
- マンモグラフィ検診画像認定施設
- 健康保険組合連合会指定健診施設
- 全国健康保険協会管掌健診指定施設

職員配置

	常 勤	非常勤
医 師	3人	5人
保 健 師	6人	—
看 護 師	2人	2人
そ の 他 の 職 員	5人	9人
合 計	15人	16人

*健診事業において、本院の医師及び臨床検査技師、放射線技師の支援を受けている。

活動状況

健診コース別受診者数

健 診 種 類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
協 会 管 掌	一 般 健 診	45	171	213	209	157	212	393	180	275	234	221	32	2,342
	付 加 健 診	1	1	10	10	6	11	5	24	6	26	15	2	117
	肝 炎													
	婦 人 科 検 診		19	14	11	12	22	63	12	27	42	5	2	229
人 間 ド ッ ク	1 日 ド ッ ク	59	81	96	154	173	150	100	121	158	119	187	154	1,552
	2 日 ド ッ ク	6	5	16	53	42	44	30	32	41	26	24	19	338
	レディースドック				31	39	43	29	17	19	25	21		224
	肺 ド ッ ク				32	51	39	6	7	13	11	19		178
健 康 診 断	定 期 健 診	62	50	174	189	111	87	54	145	63	57	57	104	1,153
	成 人 病 健 診	22	66	39	39	37	54	42	51	27	12	9	10	408
	そ の 他	6	11	16	11	11	19	14	14	11	12	7	16	148
	職 員	398	432	565	393	12	15	213	35	121	118	22	21	2,345
佐 世 保 市 関 連	国 保 脳 ド ッ ク							8	4	8	6	10	10	46
	胃 癌 検 診	116	105	132	96	79	96	88	101	108	108	118	127	1,274
	肺 癌 検 診	63	36	122	93	74	90	95	104	121	93	104	129	1,124
	子 宮 癌 検 診	104	45	101	94	68	111	94	95	115	109	113	187	1,236
	乳 癌 検 診	113	62	106	111	81	127	106	110	125	116	124	227	1,408
	大 腸 癌 検 診	67	47	118	95	82	106	103	102	121	111	129	154	1,235
	前 立 線 癌 検 診	17	15	53	33	22	31	24	39	37	25	45	39	380
	特 定 健 診		3	96	64	56	76	72	84	89	74	85	115	814
実 績 件 数	1,087	1,149	1,871	1,718	1,113	1,333	1,539	1,277	1,485	1,324	1,315	1,348	16,559	



3
各
部